

指標設定および進行管理の考え方について（案）

1. 現行計画における指標および進行管理の考え方

「茨木市地球温暖化対策実行計画」では、進行管理について以下のように記載されている。

- 二酸化炭素排出量を部門別に「見える化」し、取り組みの進捗状況や取り組みによる削減効果を把握し、評価するとともに、その評価を市民・事業者・市の取り組みに反映させる。
- 目標値（1人あたりの排出量）の経年変化の把握の他に、「次代の低炭素社会へあゆむまち 茨木」の実現を牽引する指標についても評価指標とする。
- また、2050年度の長期目標に向けた「まちの姿」を牽引する『プロセス目標』についても、地球温暖化対策推進部会およびプラットフォームからの提案を受け、設定していく。

2. 各指標の役割および設定

各指標については、その役割の性質等から「目標値への進捗指標」と「評価指標」、「プロセス目標」の3つに分けて設定をする。

ただし、「プロセス目標」の設定については、次年度以降の課題とする。

各指標およびその役割

名称（仮）	項目イメージ	役割	
①目標値への進捗指標	・1人あたりの排出量（t-CO2/人）	・目標値への達成度合いを図る。 ※排出係数についても変化が分かるように明記する。	
	<目安として掲載> ・固有単位あたりの部門別排出量（t-CO2/固有単位）		
② 評価指標		・目標に向けた要因分析の役割を果たす(a, b)。 ・複数年把握を行う(a, b)。	
	a: 全体指標	・固有単位あたりのエネルギー消費量 ※総量および部門別（固有単位あたり）	・各「まちの姿」に向けた現状把握（市、市民、事業者）を行う。(b) ・最短の時差で評価が行える。(b)
	b: 活動指標	・まちの姿実現に向けた実態や進捗を図る指標（前年度の把握が可能なものを中心に設定する）	
③プロセス目標	・2050年度の大規模削減の目標に向けて具現化した『まちの姿』の一部。 ・市域全域目標と異なり、ある主体等の行動の具現化した姿が目標となるため、将来的に各主体が自ら提言し、実行していくもの	・市民、事業者、市が目指すまちの姿を具現化して、大規模削減目標へのドライビング・フォースとなる。	

3. 評価指標設定・評価方法について

<設定の考え方>

- ・全てのまちの姿に関連する指標（全体指標）および各まちの姿実現に向けた（活動指標）の2種類に分けて設定を行う。
- ・全体指標については、計画期間中把握できる値とする。
- ・活動指標については、まちの姿別に1～3程度とする。また、複数年把握できるものとするが、社会情勢の変化や市域の状況等も踏まえ、部会の議論により計画期間中における追加が可能なものとする。
- ・その他関連計画等と指標の整合をはかる。

<評価方法>

- ・目標指標については、目標までの進捗度合いを評価。
- ・各指標について、「前回（昨年度）データとの比較」「開始年から見た傾向（増加、減少、横ばい）」について評価を行う。
- ・指標とともに、その年度に市が実施した主な事業についても、一覧表で示し、あわせて評価を行う。
- ・市民、事業者の活動については、数値としての把握が難しいため、指標化しない。ただし、市内での市民・事業者の取り組みの把握に努めて、指標の進捗評価の際に紹介し、定性的に全体の進捗管理に反映していく。

<評価指標（案）>

○全体指標例

指標	把握頻度	把握方法	留意点
・固有単位あたりのエネルギー消費量（GJ/人） ※総量について一人あたり、その他は部門別にそれぞれ把握。	毎年	・統計データより把握 ・全体および部門別に把握 ・部門は産業、民生業務、民生家庭、運輸部門、廃棄物部門とする。	・電気・都市ガスについては市域の実態把握が可能 ・その他エネルギーについては国のデータからの按分 ・排出量と比べると市域の活動実態の把握が可能

○活動指標例

<1. 環境にやさしいライフスタイルが普及しているまち>

指標	把握頻度	把握方法	留意点
・環境フェア等各種普及啓発事業への参加者数(人)	毎年	・市による把握	
・エコオフィスプランいばらきによる温室効果ガス排出量(t-CO2/年)	毎年	・市による把握	
・ごみ減量に関する啓発の取り組み数	毎年	・市による把握	※ごみ減量に関する項目を検討

<2. 多様な暮らし・なりわいができるまち>

指標	把握頻度	把握方法	留意点
・再生可能エネルギー等導入件数	毎年	・市による把握	・エネルギー事業者への照会で一部把握可
・長期優良住宅、低炭素建築物の認定件数	毎年	・市による把握	

<3. 人にも環境にもやさしく移動ができるまち>

指標	把握頻度	把握方法	留意点
・鉄道利用者数	毎年	・鉄道事業者資料	・茨木市交通戦略と整合性をとる。
・バス利用者数	毎年	・バス事業者資料	
・自動車の分担率	5年に1回	・近畿圏パーソントリップ	
・中心部の歩行者・自転車通行量	5年に1回	・道路交通センサス	
・自動車保有数	毎年	・茨木市統計書	
・EV・PHV充電設備数	毎年		・充電数は、大阪府への問い合わせ
・コミュニティ(レンタ)サイクル導入台数	毎年	・各主体への問い合わせ	

<4. 環境負荷が小さいまちづくりが進んでいるまち>

指標	把握頻度	把握方法	留意点
・公共施設、街路灯へのLEDの導入件数	毎年	・市による把握	
・高効率給湯器等導入件数	毎年		・エネルギー事業者照会で一部把握可

<5. 環境意識が次世代へ継承されるまち>

指標	把握年	把握方法	留意点
・環境学習講座等参加者数(活動者数)(市、市民団体、環境教育ボランティア)	毎年	・市による把握、各団体への照会	
・里山センター利用者数および市民ボランティア養成数	毎年	・市による把握	

4. 進行管理スケジュール

<把握可能なデータについて>

- ・「目標値への進捗指標」および「全体指標」の排出量に関するデータについては、統計データの関係から 2 か年前の状態の把握となる（7，8 月頃目途に収集）。
- ・「全体指標の活動数」や「活動指標」および「実施事業」については前年度分の把握が可能。

<評価のイメージ>

- ・別紙 1（進行管理・評価イメージ）のとおり。

<スケジュールの目安>

- ・前年度の取り組み評価およびその評価を次年度以降の取り組みにつなげていくことが目的であることから、速報値にて、7～8 月頃を目処に評価・審議を行い、「いばらきの環境」（10 月頃）に反映させ、公表する。

5. 今後の課題・留意点

<プラットフォームについて>

- ・プラットフォームと部会や指標との関連性については、プラットフォームの活動を進める中で連携の方法を継続的に検討していく

<指標・評価方法について>

- ・今回設定した指標以外に、経年変化として把握可能ものや進捗管理に使用できるものがあれば、必要に応じ追加するなど、柔軟な運用を行う。
- ・市、市民、事業者の実態をあらわす指標や評価方法については、引き続き研究する。
(例えば、市が実施した事業以外での事業者、市民独自の動きの把握は困難であり、評価が難しいことなど。)